

LA WORLD 025

グローバル
ランドスケープ通信
vol.25

Oulu Island Urban Planning River rapids center Alvar Aalto/Finland



オウルは、森と湖の国、フィンランドの中部に位置し、ボスニア湾に面する港湾都市である。

1600年代、スウェーデン王室の測量技師 Claes Claesson によって、格子状の都市計画が成され、その後 1943 年、Alvar Aalto によって水力発電所を中心とした島状のマスタープランが描かれた。

River rapids center は、巨大なインフラ施設でありながらも、生き物への細やかな配慮がされた、人々の安らぎの空間として一体的につくられている場所である。



“感性”が息づく フィンランドの ランドスケープ

オウル川の対岸をつなぐ島状のエリアは、5つの島からなり、小さな橋によって連結されている。それぞれスポーツ施設、住居群、公園、水力発電所となっており、どの島もフィンランドの森を連想させる空間が広がっている。その一つである River rapids center では、水力用の水が公園内部に入り込み、小川になるようにつくられており、産卵時には鮭が水路を昇ってくる様子が見られる。また、レベルの異なる広大な水面が、歩道を跨いで広がる風景は圧巻である。



公園内部の小川 魚が川を昇りやすいようにつくられている

ここでは、巨大なダムとしての水のダイナミズムと人や生き物の憩いの空間としての細やかな水の動きが共存しており、多様で流動的な水の表情を感じることができる。このことが非常に魅力的な空間へと導いている。

また、このエリア一体の島は、水をせき止めるためのダムとしての機能だけでなく、対岸の町との関係を密にする連結部として機能していることが非常に面白い。もともと2つの地域に分れていた場所が、川辺と港湾の両方の性質を持った水と緑の空間によって繋がっているのである。またこれらは、島という形状を活かしたシークエンスの操作によって、眺望点がつくられ、空間が構成されている。

それぞれの島には、小さな森と、自転車と人が通れるくらいの小道がつくられており、町中に居ながら“北欧の森の空気”を感じることができる。昼間には、サイクリングやローラーブレード、ストックを持って歩くノルディックウォーキングを楽しむ人で賑わう。また、島の一部にはヨットハーバーあり、芝地の上から見た夕焼けに染まっていく景色は心奪われる風景であった。

グリッド状の都市計画が残るオウル市街地の湾岸部では、マーケットプレイスが広がり、港町としての風景が色濃い。



オウルの湾岸エリア 改修された倉庫の中にはレストランや雑貨屋さんが入る

フィッシュフライやサーモンスープを持ち寄り、階段場のデッキで生演奏の音楽と共にひとときを過ごす。これがオウルの人々の穏やかな夕方の風景である。

一足伸ばせば、ブルーベリーが自生する北欧の森が広がるというのに、町中にも小さな森をつくるというところが、フィンランドの人々の精神や感性を表しているのではないだろうか。フィンランドの人々は、多くの時間を家族や親しい人々と共に湖畔のコテージで過ごし、サウナに入り、湖に飛び込む。こういった生活スタイルが、自然の一部となって過ごすことをごく当たり前のことと感じさせ、町中にもそれを自然と求めているように感じられる。

また、今回紹介した River rapids center や島状の公園も、繊細にデザインされているというよりは、森の中に住戸や競技場が入り込んでいる印象を受ける。あくまで、人は、自然の中の一部として関わるという、自然との距離感のようなものが伝わってくる場所であった。

(取材：河野明日香)

info

Address: Kasarmintie 13, P.O. Box 404,
FIN-90101 Oulu
FINLAND

Access: オウル空港より 車で 40-50 分
オウル駅より徒歩 10 分

Hours: 24 時間

Fee: 入場無料

Map:

